

JSIS企画委員会&研究委員会presents
若手支援企画第2弾 中部地区研究会共催

若手研究者支援・公募型&実践型ワークショップ 「情報化する地域—地域のどこに情報があるのか？ 地域はそれを活かせるか？」

日本社会情報学会(JSIS)では、若手研究者支援企画として、公募による査読付き報告&現場との実践型のワークショップを開催しています。研究環境が厳しくなる中で、私たちはますます、自らの研究の社会的意義や必要性を問われています。そこで、実社会で各領域を牽引する第一人者をコメンテータにお招きし、全国から選抜された若手研究者の報告をもとに、通常の学会報告では得られない議論と、人的なネットワーキングをつくりだす場をめざします。どなたでも出席できます。ぜひ、若手研究者と第一線のコメンテータとの討議空間に、ご参加ください。

2009年3月15日(日) 13:00~17:30

参加費：無料

名古屋大学大学院 情報科学研究科 第一会議室

(東山キャンパス) <http://www.nagoya-u.ac.jp/camp/>

(終了後にコメンテータを囲んでの懇親会を開催いたします。)

招聘コメンテータ

1. (行政サイド) 馬宮和人 総務省情報流通行政局地域振興課 課長補佐
地域行政施策の立場から、実践的なコメントをいただきます。
2. (企業サイド) 井上滋樹 (株)博報堂 MD 統括局
ビジネスサイドから、国内外のUD事例などを元に幅広くご意見をいただきます。
3. (市民サイド) 大西光夫 NPO 法人ボランタリーネイバーズ 理事長
市民・NPOの第一人者の視点から、社会的意義を問えるご批判をいただきます。
4. (研究サイド) 加藤晴明 中京大学現代社会学部教授(中部地区研究委員)
研究手法・報告の仕方の観点からのアドバイスをいたします。

主催：日本社会情報学会(JSIS)

問い合わせ先：企画委員会 若手研究者支援ワークショップ担当

柴田邦臣(大妻女子大学社会情報学部) k.shibata@otsuma.ac.jp

ワークショップ採択報告者

<p>吉野太郎 関西学院大学総合政策学部・ひょうごんテック 地域情報化のためのインフラ作成とは —NPO/NGOの情報通信技術（ICT）支援の現場から見る現状とリテラシー</p> <p>震災を経た神戸の地ではNPO/NGO活動が盛んであり、その現場からの「地域情報化」が進められている。しかし、そのNPO/NGO活動の現場での「情報化」はなかなか進んでいない。そこを助ける仕組み作りを試みた、1、NPO支援のNPO、ひょうごんテックの実践報告から見る現場の状況、2、ひょうごんテックが行った調査から見る、NPOのITの現状を報告・分析する。</p>	<p>本田正美 東京大学大学院 学際情報学府博士後期課程 自治体広聴制度と自治体CIOの役割</p> <p>本研究は、自治体の広聴制度に着目し、広聴事業の現状と課題を整理することで地域情報化が行政に流入するのかを分析する。また、昨今、自治体において設置が進んでいる情報マネジメントの責任者であるCIOの役割について確認し、さらに、自治体CIOと広聴制度の関係を検討する。この作業を通じて、市民が地域情報を行政に容易に提供出来る仕組みや地域情報を行政活動に反映させる仕組みをいかに構築していくかを検討することが本研究の目的である。</p>
<p>平田知久 京都大学文学研究科グローバルCOE研究員 データベースとしての「地域」とは何か？—— 人々はそれをどのように生かすことになるのか？</p> <p>本報告は、現代におけるデータベースとしての「地域」の本態と、その良き利用のあり方を考える上での指針を示すことを目的とする。その際、情報技術の発展と「希少性」という情報の価値尺度が相反関係にあることに着目し、現代社会における地域情報の特殊性が、特殊な諸個人のニーズに支えられていることを明らかにした上で、そのニーズを満たすというあり方とは別の、データベースとしての「地域」の良き利用のあり方を考察する。</p>	<p>近藤真由 名古屋大学大学院 情報科学研究科博士過程 地域サイトの継続促進のための情報収集プロセスの構築と運営</p> <p>地域サイトの運営では、情報を集める仕組みづくりが最も重要な課題となる。本研究では、情報収集プロセスの構築に向けたコンテンツ管理の側面から地域サイトの運営方法を提案し、システムの試作およびサイトの運営実験によってその効果を検証した。情報収集プロセスの見直しとそこで集まる情報の適切な管理によって、継続的なサイト運営が可能となった。今後は、提案した手法が汎用的なものとなるよう、更なる検討を行ってきたい。</p>

スケジュール

13:00～ 「情報化する地域—このワークショップについて」

大國充彦(JSIS 企画委員長)・森谷 健 (JSIS 研究委員長)

横井茂樹 (名古屋大学情報文化学部長・大学院情報科学研究科教授)

13:10～ 講演 現在の地域情報化施策 馬宮和人 総務省情報流通行政局地域振興課 課長補佐

13:20～ ワークショップ 司会：吉田寛 静岡大学情報学部 准教授

17:20～ 総括・次回のお知らせ 安田孝美 (JSIS理事・名古屋大学情報科学研究科教授)

18:00～ ネットワーキングのための懇親会 「グランピアット」 (<http://r.gnavi.co.jp/n064900/>)

テーマ解題

(担当：柴田邦臣 大妻女子大学社会情報学部)

「情報化する地域—地域のどこに情報があるのか？地域はそれを活かせるか？」

過疎化・不況などにより疲弊する地方の振興策として、または社会関係を喪失し孤立させる都市の改善策として、「地域の情報化」が着目されている。それは自治体行政の情報化から、地理情報(GIS)を活用した情報支援・災害支援、ユビキタスによる地域通貨や商店街活性化、住民自らによる情報共有サイトの構築など、あらゆる分野で広がりを見せている。

もともと地域の情報化は、最近よじまった話ではない。前世紀から、常に情報技術は地域生活への導入が図られ、いくつもの「画期」と称される取り組みがなされてきた。それらの大半が、十分に根づかないまま終わってしまったからこそ、現在でもなお、地域情報化が語られ、目指されているのだといえるだろう。

なぜ私たちは、未だ自分たちの地域について、充分知り得ないのか。なぜ住民による地域情報の活用が、未だ満足に達成されないのか。地域の情報化は、現代の情報科学・社会科学・人文科学に共通する問題として、より多角的に取り組まなければならない。

私たちは、いかに地域の良質な情報を収集し共有できるのか。それがいかなる地域の変革をもたらすのか、そして地域は、自らの力で発展していくのか。地域情報化を技術と社会の多様な側面から再考してみる機会を提案したい。地域情報化の第一人者を、行政、ビジネス、そして住民・NPOの3領域からお招きし、理系・文系問わず積極的に議論し、その後の協働に結びつけることを狙う。